

17 平民宰相：原敬

原敬（1856-1921）は、現在の岩手県盛岡市に生まれました。幼くして父親を亡くし、15歳で上京しました。経済的に苦勞し、1872（明治5）年にフランス人神父が運営するカトリック神学校で学び始めました。原がこの学校で学んだ理由は学費がかからなかったことですが、ここで洗礼を受け、ダビデという洗礼名を与えられました。原は、神父が行っていた宣教活動に同行したこともあり、神父から学んだフランス語力を活かして新聞記者となり、その後外務省に引き抜かれて、1885年にパリの日本公使館に赴任しました。



HARA Takashi
(National Diet Library, Japan)
原敬（国立国会図書館）

原は、1889（明治22）年にパリ勤務を終えて帰国し、外務次官になった後に退官しました。新聞社経営に携わり、政界に進出しました。そして、1918（大正7）年に内閣総理大臣になりました。原内閣は、日本で最初の本格的な政党内閣でした。第二次世界大戦前の日本には貴族制度があり、華族の爵位を拝受できる立場にありましたが、原はこれを固辞し続けたことから、原は「平民宰相」と呼ばれました。

原が内閣の要職にあった第一次世界大戦の時代は、軍需工業品の生産のために国民を動員する必要があり、そのために人口調査が必要でした。フランスから人口調査の重要性を学んだ原は、総理大臣になって内閣に国勢院を設置し、第一次世界大戦後の1920年（大正9年）に全国を対象とした第一回国勢調査を実施しました。そして、統計の更なる発展を目指して、内閣に中央統計委員会を設置しました。

フランスで勤務経験を持つ原敬は内閣の中心人物として、日本の近代国家への歩みに貢献しました。

掲載日：2022年7月6日